



# さくら国際高等学校 学園長と「24時間先生」

## 荒井裕司さん (64期)



荒井さんは上田市にある学校法人上田煌桜学園さくら国際高等学校の創設者で学園長をされている。今回はJ R代々木駅西口近くの同校東京校へ取材にお邪魔した。

行っている。そのため、中学時代に不登校だった生徒や、転校生も安心して学べる人気の学校となっている。また、全国に提携する100校以上のキャンパスを併設している。

東京校の特徴は週5日登校型で単位制、3年間で高校卒業資格が得られる。更に各種の部活動が活発なこと。一

校舎は最上階がプラネタリウムになっている特徴ある建物だ。「不登校は誰にも起こりうることで、成長のステップの一つ」という信念のもとに、生徒一人ひとりが持つ個性や感性、創造力に光を当て、「自分が得意とすることを伸ばし、それで他人を幸せにできる」ことに気づいてもらう教育を

動が活発なこと。一昨年はダンス部がNYのカーネギーホールで発表会を開いた。コースはユニークな4つのコース。

①進学コース、②美術イラストコース、③総合エンターテインメントコース、④ペットアニマルコース。

25年前から始まった「ラオス小学校建設活動」も大きな特徴の一つ。現在は9校目の学校建設のために生徒たちはバザーを開いたり寄付金を集めている。代々木公園で毎年開かれる「ラオスフェスティバル」では15万人もの来場者があり、ビッグイベントになっている。不登校の生徒たちは本来ものす

体育祭の一コマ



ラオス訪問～「ラオス小学校建設活動」8校目の校舎をバックに地元の小学生たちと 2018年8月

ごいエネルギーを持っていて、卒業生には医者が多く、また大学教授、作家、漫画家、声優、NHK紅白出場歌手、ピアニスト、俳優などさまざまな分野で活躍している。

荒井さんは学園長として学園を経営・運営する一方で「24時間先生」でもある。不登校やひきこもりで悩む保護者から相談の連絡を受ける

どこへでも昼夜にかかわらず駆けつける。そもそも不登校の子どもたちと関わるようになったのは、大

学卒業後にサラリーマン生活を3年で辞めて、親たちからの依頼もあって小学生対象の学習塾を始めたことがきっかけ。今

から50年も前から保護者からの依頼で家に行っても、長年ひきこもっている子どもは「見知らぬおじさん」に簡単には会ってくれない。それでも子どもが心の扉を開けてくれるまで何回も粘り強く訪問する。元来子どもが好きなのと、野生児として育

った少年時代と、今は「大人のガキ大将」ということも手伝って、疲れるとか大変だと思ったことはなく、今後もライフワークとして続けていくとのこと。

最後に、母校現役生の皆さんにメッセージをいただいた。「振り返れば自然に囲まれたあんな素晴らしい故郷はない。だが、若いうちにぜひ海外に出て外から日本を見てほしい。見方や考え方が変わるはず。そして殻を破って世界に雄飛して欲しい。」

【川西中学校出身。新聞班。(一社)日本青少年育成協会理事。信州上田観光大使。趣味・釣り、カヲケ、麻雀、野菜作り。座右の銘・気ままに自由に生きる。著書『24時間先生』(メディアファクトリー)、『ひきこもり・不登校からの自立』(マガジンハウス)など多数。取材・2022年3月10日さくら国際高等学校東京校にて。取材者・倉沢副会長、荻原編集長】



正面入り口にて…荒井学園長(左)と倉沢副会長

## 「不登校」も成長の証

「じぶんらしく、輝く」

一人ひとりが持つ個性を大切に、

柔軟な教育スタイルときめ細かいサポートで

生徒を笑顔に導きます。

【4つのコース】

- ◆進学コース ◆美術イラストコース
- ◆声優 タレントコース ◆ペットアニマルコース



＜最近の合格実績＞  
 【国公立】東京大(医)・東京大・京都大・北京大(医)・筑波大(医)・長崎大(医)・東京工大・東京外大・千葉大・新潟大・信州大ほか  
 【私立】早稲田大・慶應大・ICU・上智大・東邦大(医)・東海大(医)・杏林大(医)・北里大(医)・帝京大(医)・明治大・法政大・中央大・青山学院大・東京女子医大・津田塾大・聖心女子大・多摩大ほか

学校法人上田煌桜学園 さくら国際高等学校 東京校

東京都渋谷区代々木 1-43-8

Tel 03-3370-0718

http://www.tokyo.sakura-kokusai.ed.jp

理事長・学園長 荒井 裕司 (64期)